

アドセンス審査について

こんにちは、松下です。

今日は、アドセンス審査について解説していきます。

YouTubeでアドセンス報酬を獲得するためには、登録者数が1,000以上、総再生時間が1年間で4,000時間以上、という条件をクリアする必要があります。

その条件をクリアすることができれば、チャンネルが利用規約やガイドライに違反していないかなどの審査が行われますが、この審査をパスすることができないと、アドセンス報酬を獲得することができません。

なので、今回のお話は非常に重要になりますので、最後までしっかりとご視聴いただければと思います。

それでは、張り切って参りましょう！

まずは、こちらをご覧ください。

「YouTubeのチャンネル収益化ポリシー」という項目です。

この項目の中にある「チャンネル審査時に確認される内容」という項目が、アドセンス審査の内容になります。

「YouTubeの審査担当者は、チャンネルを代表するコンテンツをポリシーと照らし合わせて確認します。

審査担当者は全ての動画を確認できるわけではないため、チャンネルの以下の内容を重視します。

- 1、主なテーマ
- 2、再生回数の多い動画
- 3、最新の動画
- 4、総再生時間の多くを占める部分
- 5、動画のメタデータ（タイトル、サムネイル、説明文など）

これらは、審査担当者が評価するコンテンツの例に過ぎません。

審査担当者は、チャンネルポリシーを完全に遵守していることを確認するため、チャンネルの他の部分も参照する場合があります。」
となっています。

つまり、簡単に言うと「審査をパスするためには、利用規約やガイドラインをきちんと守っている必要がある」ということになります。

コンテンツポリシーの中でも、特に重要となる項目は「AdSenseポ

リシーの遵守」という項目です。

ここには、アドセンス審査が通らない2つの理由について記載されています。

まず一つ目は、「繰り返しの多いコンテンツ」です。

「繰り返しの多いコンテンツとは、コンテンツが類似していて、視聴者が同じチャンネル内の他の動画との違いを識別するのが難しいチャンネルを指します。」

「このポリシーは、チャンネル全体に適用されます。

つまり、YouTubeのガイドラインに違反する動画が多くあると、チャンネル全体で収益化が無効になる可能性があります。」

となっています。

具体的に、どんなコンテンツが審査に通らないかというと、下のほうに「収益化が許可されない例」という項目がありますので、ご紹介します。

「1、ウェブサイトやニュースフィードのテキストなど、自分で作成していない他の資料の内容を読み上げただけのコンテンツ

2、音程や速さは変えているが、それ以外はオリジナルと同じであ

る曲

3、教育的な価値が低く解説や説明が少ない、繰り返しの多いコンテンツ、または漠然として意味の無いコンテンツ

4、テンプレートに基づいたコンテンツ、大量生産されたコンテンツ、またはプログラムによって生成されたコンテンツ

5、説明、解説、教育的価値が最小限または全く無い画像スライドショーやスクロールテキスト」

となっています。

例えば、メトロノームが永遠と繰り返されている動画や、運気が上がるなどの名目で同じ画面が永遠と繰り返される動画、または、写真と文字だけが流れるスライド動画などが、こちらに当たります。

これが全てではありませんが、このような動画がチャンネル内にあると、アドセンス審査は通りませんので、気をつけてください。

次に、その下の「再利用されたコンテンツ」という項目ですが、

「再利用されたコンテンツとは、独自の解説や教育的な価値を十分に付加せずに他社のコンテンツを再利用しているチャンネルを指します。」

「このポリシーはチャンネル全体に適用されます。

つまり、YouTubeのガイドラインに違反する動画が多くあると、チャンネル全体で収益化が無効になる可能性があります。」

ということです。

こちらも具体例が下の方にありますので、ご紹介します。

「1、テレビ番組の一部が編集されているものの、説明がほとんど無いか、全く無い

2、他のソーシャルメディアのウェブサイトのコンテンツを集めた短い動画

3、さまざまなアーティストの曲のコレクション（許可を得ている場合も含む）

4、他のクリエイターによって何度もアップロードされたコンテンツ

5、他者のコンテンツのプロモーション（許可を得ている場合も含む）」

となっています。

簡単に言うと、テレビ番組や楽曲のコレクション、それと既に

YouTubeにアップロードされている動画などは、たとえ権利者の許

可を得ていたとしても、審査は通りませんよ、ということになります。

たまに生徒さんから「自分が出演しているテレビ番組を、YouTubeにアップしたら審査が通りませんでした」や「権利者の許可を得ている動画を、YouTubeにアップしたら審査が通りませんでした」という声を聞きますが、YouTubeは特質上、たとえ権利者の許可を得ていたとしても、再利用されたコンテンツとみなされ、審査が通らない、ということになっています。

以上が、アドセンス審査が通らないコンテンツの、具体的な例になりますが、このようなコンテンツは、せっかく長い時間をかけて作ったとしても無駄になってしまいますので、最初から作らないように注意してください。

次に、もしアドセンス審査に通らなかった場合の対処法について解説します。

アドセンス審査に通らなかった場合、このような通知がメールが届きます。

「次回チャンネルが承認されるためのおすすめの方法」という内容です。

つまり、もしアドセンス審査に通らなかったとしても、再審査をしてもらえる、ということです。

この通知には、再審査をする上での重要なことが3つ記載されていますが、これから一つ一つ見ていきたいと思います。

まず一つ目は、「利用規約やガイドラインを確認する」という項目です。

こちらは、今一度、自分のチャンネルが利用規約やガイドラインに違反していないかを確認し、違反していると思われる動画がありましたら、全て削除してから再審査を申請してください、という内容になっています。

次に二つ目ですが、「誠実でいる」です。

こちらは「他のユーザーのコンテンツをアップロードすることや、金銭を支払って視聴回数、高評価数、チャンネル登録者数を増やすことは避けましょう」という内容になっていますが、すでにこれをやっているチャンネルは、もはや再申請をしても審査にパ

スすることは難しくなります。

なので、このようなことは、最初からやらないように気をつけてください。

特に、業者にお金を支払って視聴回数や登録者数を増やしているチャンネルをたまに見かけますが、これをやるとチャンネルが不自然になりますので、必ずYouTube側にバレてしまいます。

なので、絶対にやらないように注意してください。

次に三つ目ですが、「準備が整ったら再申請する」です。

こちらは、上の2つの準備が整ったら審査の再申請をしてください、という内容になりますが、審査の再申請には1つだけ条件があります。

それは、月に一度しか申請ができないということです。

例えばこの場合は、2019年の9月9日に審査に通らなかった旨の通知を受けたので、翌月の10月9日以降でしたら、いつでも再申請ができるということになります。

そして、もし10月9日に再申請をして、それでも審査に通らなかったとしたら、それから翌月の11月9日以降に再申請ができる、と言

った感じです。

以上が、アドセンス審査についての解説になりますが、いかがだったでしょうか？

あなたがこれからYouTubeのアドセンス報酬で、バリバリと稼いでいくためには、アドセンス審査を受けるということは必須になりますので、今回の内容をしっかりと頭に叩き込んで、あらかじめ審査が通るような、そんなチャンネル運営を心がけながら取り組んでください。

というわけで、今回は以上になります。

最後までご視聴いただき、ありがとうございました。